

公益財団法人
いのちの森
文化財団



Vol. 25
2013.Jan.

平成25年1月15日発行
編集 山下 薫

地球のいのちの営みと調和、融合して
共に生き合うコミュニティづくりの情報を発信する

いのちの森通信

発行/ 公益財団法人いのちの森文化財団 〒380-0888長野市大字上ヶ屋2471番地2198 TEL 026-239-0010 FAX 026-239-0011
ホームページ <http://inochinomori.or.jp> Eメール zaidan@inochinomori.or.jp



人間に宿り動き続ける 宇宙大生命

皆さま、私、80歳になりました。生きて来た、いや、生かされて来た。人生って、何とありがたい、奇跡の連続!!」と不思議でなりません。自分で生きて来たというより、「自分以上の大きな力、《宇宙大生命様》と言いたい不思議な存在のお計らいでこまごま生かされて来たのだ」と思わずおられます。その宇宙大生命様がこの小さな体と欠点だらけの心の奥底に宿り、今も息づいていて、何かを成させようとして、外側からはそれを助けるピッタリの出会いを与え働き続けていくのだと。そんな不思議な実感です。「人間って、何と不思議な存在だろう!!」と、80歳の今、いよいよ思わずにおれません。その80年の不思議な歩みの要点をこの連載で話させていたたくことになり、これまた何と有り難いことかと思ひます。

この歩みから得た私の現時点での人生理解の要点を簡単にまとめると次のようになります。
[1] 宇宙は1人も無駄な人を造ってはいない。どの人にもどの人にも、その人でなくては果たせない大切な役割を使命を与えて造っている。だから自分を他と比べて悩む必要はない。
[2] 人間は自分でもまだ気づいていない素晴らしい素質・可能性・英智・いのちの力に役割・使命を果たすに必要な能力を秘めている(宇宙から与えられている)。

[3] 宇宙

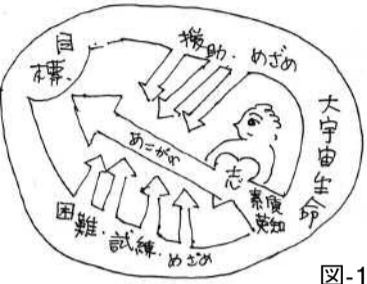


図-1

連載 『ほんとうの自分』とは?

人間の深層生命の すばらしさと その発揮への道

馬場 俊彦

(名城大学名誉教授)



志の眼覚め

は自分の生み出した者を育て完成しよう、今も内側から(深い本心の声を通して)、外側から(ピッタリの出会いをピッタリの時に与えることを通し)着々と働か続けている(図1)。

中学1年の時、日本敗戦。私には敗戦そのものがショックというより、先方のおっしゃることが、敗戦前と違って変わったことが大ショックでした。敗戦までは「日本は神の国、天皇陛下は賢くも神であり、諸君の本分は陛下のおん命を捧げ奉ることである。特攻隊になつてアメリカの軍艦に突っ込むのだ」と言っていた先生が、占領軍がやってくる、と、「日本の国は変りました。民主主義の国になりました。諸君は民主社会の良き市民となるのです」と言い始めました。とうとうある日私は授業中に「質問です」と手を挙げました。「先生、そのうすると、敗戦前、あんなに一生懸命おっしゃっていたこと

は、あれ、全部、どうなつたんですか?」「ア:あれはね、日本中、全部、一部の軍人にね、ダメサレとつた:オドラサレとつた。自分の命は20歳までと覚悟していた私に、これはショックでした。やがて中国では共産党が新政府を樹立しま



した。日本国内でも、経済的大困窮の中、労働組合の活動が激しくなりました。私は思いました。もし日本に共産主義政府が出来たら、先生たちは今度は何と云うのだろうか?「あれはね、ダメサレとつたの、アメリカ帝国主義者にね」って言うのだろうか?「だんだんと疑問が強くなり、ついにこう決心しました。「世の中、変わる。先生たちの言うこともコロコロ変わる。そんな先生たちの言う事を鵜呑みに信じていたら、自分の人生、ドッチを向いて歩いているか判らなくなる。自分は、世の中がどう変わっても変わらなぬものを自分の責任で見つけ、それを自分の人生の土台にして生きよう」と。この決心は、本当に、それ以来80歳の現在まで、あらゆることを通し脈々と固く続いてきたのだと、今つくづくと思ひます。



図-2

中学入学時の母の一言

「熱い深層」から湧いてくるものと言えます。(もちろん「病氣の人を助けるために医者になる」というなら、それは自己生命保持のためという利己性よりは利他性の動機で、尊いと思ひます)。
日本の敗戦という出来事は私の深層を眼覚ましたのでした。(心の2層構造図2参照)

もう一つ私にあの質問をさせたのは、中学に入学した時の母の一言だったと、今思ひます。入学式から帰った時、母が言いました。「今日からお前は中学生、おめでとう。そこでお前には言う事がある。中学に入ったら今までのようにはいかない。小学校までは、何か判らんことがあると、先生の方から寄つて来て『どこが判らん?そこはナニ?』と親切に教えてくださつた。中学でそうはしてくださらぬ。お前が判らなくても、どんどん進んで行きなされる。そんな時、お前はどうする?」「どうしたらいいの?」「そういう時は、「先生、質問があります」と言つて、判らんとお尋ねする。すると先生はきちんと説明してくださる。だけど、他の皆が判つた顔しているとき、お前だけ判らなくて手を挙げるの、恥ずかしいやろ?」「それ判らないうわ」「だけど、恥ずかしいので黙つたら、どうなる?死ぬまでズット判らずじまいやろ?」「それ、そうや」「恥ずかしくて、思い切つて質問して判つたら、死ぬまでズット判らなばなしや。どっちがええ?」「それ判ら、判らなばなしがええ」「それで昔の人が言つてる。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」とな。それで私はそれをそれ以来いつも実



行しました。「人が見たら恥ずかしい」と「人の眼を気にする」表層の気持ちに負けずに「本当のことを知りたいたい」という深層の願いに生きることを、中学入学の時に母は教えてくれたのでした。これが私の生涯の根本姿勢となつたと、今思ひます。《人間の深層にあるすばらしい本性の発揮への道》で、その「素晴らしい本性」《いのちの深層》を眼覚ますものは日本の敗戦と母の言葉昔からの諺「真理の言葉との出会いでした。」

出会いと眼覚めの進展

「真実なものを自分の人生の土台として生きたい」という私の願い・志は、その後の私の人生を一貫して導くことになったと今しみじみと思ひます。人生は本当に不思議です。敗戦と母の言葉によるこの「志」の眼覚めを「志の第一の眼覚め」と呼ぶならば、人生の歩みのなかでこの志を実現へと導く出会いが次々と起り、第二、第三の眼覚めが相次いで起つていくのです。友人との出会い、本との出会い、そして人生の恩師となる方との出会いです。人生は実に有り難い出会いで開けていくのだと思ひます。勿論、さまざまな人生の困難、耐えがたいほどの困難、死ぬほどの苦しみという出来事も待ち構えていました。しかしそれらは皆、私をいよいよ深く眼覚めさせ成長させるものでした。そして、人間の生命に秘められた素晴らしさへの理解を、いよいよ広げ、深めるものでした。この私を成長させようとしてくださっている宇宙大生命様の計らいを今更のように有り難く思ひます。

ばばとしひこ 1932年岐阜県に生まれる。1951年東京大学文科一類入学。出世競争に驚き文学部哲学科に転進。修士修了するも博士課程不合格。前途に絶望。ある夜自殺寸前から立ち上がり、以後不思議な人生の展開を経験。1966年名城大学就職、理工学部で英語・哲学担当。同大学大学院総合学術研究科・経営学研究科、また愛知医科大学看護学部で人間学を講義。現在名城大学名誉教授。

教師の 新年の講話



かつて禅寺に座禅に通わせて頂いていた頃、新年と言え暮れ31日午後11時頃から朝方にかけて座禅の行を行いながら新年を迎えるという日を過ごしていた。幼少の頃から20代くらいまではやはり善光寺への二年参りが常であったし飯綱に居を移してからは戸隠5社への二年参りと正月の過ごし方は殆ど変わっていない。

「使命に生きる」
「是だといふものをつかむのだ」
「人間とは偉大なものであるぞ」
などなど教師から学んだものは大きく、また私自身の「死生観」を深めさせて頂いたと感謝している。

信州の文化が息づく 野沢菜漬け



自家採種した野沢菜の種をまき、農薬・肥料を使用せずに育てた野沢菜をみんなで洗い漬け込みました

一方、家庭では暮れの29日頃から年越し料理、おせち料理と昔ながら

がらの手作り料理が作られ、これもまた長年に渡って続いている。変わらない日本の原風景が此処にも生きています。

「いのちの森」水輪でも昨年末も二回にわたって実習生達と共に300キロ余の野沢菜を漬けた。昔からこの野沢菜漬けの風景が消えて久しい。

寒風吹きすさぶ中で洗い桶を屋外に出して4回から5回も野沢菜を綺麗になるまで洗い、それぞれの家庭独自の漬け方で漬けていく。この野沢菜漬けは様々な家庭作業の中でも最も重労働であり、

新しい年を迎えて



塩澤研一

(いのちの森文化財団副代表理事)



この大変さからか現在では殆どの家庭から自家製の野沢菜漬けは消えてしまった。

私はこの野沢菜漬けの中にこそ信州の文化が息づいていると思っている。機械による流れ作業で

洗われた野沢菜を出来上がった調味液に漬けて1週間、輸送と陳列のわずかな時間で食卓に出される「野沢菜漬け」は最早信州文化とは言いがたい。

今年も11月の中旬と12月の中旬の二回、のべ20名の仲間と共に水輪の自然農園で採れた野沢菜を漬けた。1ヶ月以上の時間をかけて樽の中で熟成し食卓に上るといって食文化は心を温かくしてくれるスローライフそのものである。冬の信州になくてはならない風物詩でもある。



帯津良一先生による「がん患者さんのための養生塾」での車座交流Q&Aの様子。真剣に答えてくださる帯津先生。

真我の自己に出会う為の学び

いのちの森文化財団は教育文化事業を通して人々の中に育まれてきた伝統や文化、自然の営みを守り、人間としての心を育てていく公益財団として存在している。

平成18年財団法人として認可され平成23年公益財団法人として認定されて2年、この財団のもつ役割がさらに大きく問われていると感じている。

人間の持つ苦しみを釈尊は「生老病死」の四つの苦みを基本として人生哲学を説いているが、財団で開催している帯津良一先生による「がん患者さんの為の養生塾」、宮島基行先生の「心の探求」、巽信夫精神科医師による「心の相談とやさしい心理学」、久間祥多脳神経外科医師による「脳と心の勉強会」、氣功家の中健次郎氏による氣功合宿をはじめ、塩澤みどり代表理事によるカウンセリングと青少年自立支援の生活指導、また私も関わらせて頂いている「内観法」など、全てが人間の持つ根源的な苦しみや悩みから自己を解放し、心を高め生き生きとした人生を歩んでいくための学びとなつていく。加えて様々な講師陣による青少年育成講座なども、財団で企画させて頂いているものは全て真我の自己に出会う為の学びとも言える。

科学と宗教を止揚するものは何か？

様々な宗教から学ぶものも多いのだが、新興宗教は往々にして依存性を増長し、マインドコントロールに陥ることが多々ある。一方「科学万能主義」という落とし穴にも気をつけておかなければならない。実際に今私たちが科学と言っているニュートン力学に代表される「科学的世界」で解つていくことは極めて狭い領域のことであり、私たちが固定的に考えている時間や空間の概念すらマクロからミクロに至るほんのわずかの領域でしか成り立たないという事実がある。宇宙論や素粒子論の視点に立てば「宗教」と「科学」が同一の領域に存在していることはかなりの明白なものであるように思うのだが・・・

更に今の科学の粋を集めて建設されたという「原子力発電」ですら政治や経済の狭間にあつて、あたかも安全であるような情報に操作され、実のところ断層の走り回る危険な場所に建設されていたり、建設技術すら経済の観点から実際にはかなり不十分な手抜き工事であったという事実が東日本大震災において見事に証明されてしまった。

科学や宗教も現象化するときにその過程で「人間の意志」が働いているわけだから「絶対的な真実・客観性」は成り立たないと言



脳神経外科医の久間祥多先生による「脳と心の勉強会」。様々な心の病も脳内の働きを知ることで、新たな発見があります。

物質文明が生んだモノ的な人間社会

私たちの若い頃は科学や経済が最も進化し高度経済成長の時代を生んだが、今やこの繁栄は日本から中国、インドへと移行しつつある。

私たちの目に映る東南アジア近隣諸国の異常なまでの反日感情や政治的・経済的な敵対意識の根底にあるものは物質文明の生んだ心の貧困にあるのではないか。かく言う日本自身も物質文明に最も翻弄され、心の貧困が大本と言える様々な現象を生んでいる。「子殺し」「親殺し」「いじめ」「環境

破壊」「引きこもり」「ニート」などいづれもモノ的な価値観が生んだ現象と言えらるだろう。

このような時代だからこそ「心を高める人生」を自らの手に取り戻す時が来たのではないだろうか。様々な矛盾を生んでしまつてきた「人間の意識・考え方」が大きな過ちを容認しモノ的な人間社会を作つてきてしまつていて。食の安全の危機などはこの人間の脆弱な意識の結果と言えらるだろう。

「良心」を開き「良知」に基づいたあり方への方向転換を

今、私たちは自らの「良心」を開き「良知」に基づいたあり方、やり方に方向転換して行かなければならないのだと思う。

政治や経済においても「今この現実の事々をストップしたら経済が成り立たない」といった妥協を良しとする風潮が政界財界に蔓延し、庶民の人間としての素朴な願

「コラム」 「良知」とは

「良知(りょうち)」とは、王陽明が50歳ごろに悟つた考え方。

王陽明思想の中で中心的な位置を占める概念。王が、揚子江上流の辺境の地である龍場の駅丞という閑職に左遷され、中国語も話せない現地人の教化に務めた実践の中で悟つたもの。「良知」は「龍場の大悟」であり、これが陽明学の原点である。王陽明の主張は実に明快で、この「良知」はすでにすべての人に持たれているのだが、人欲、物欲がそれを覆い隠しているという一点にある。

「格物・致知」を朱子学は「物にいたりて知に至る」と解釈するのに対して、陽明学は「物をただして知を致す」と解釈する。そうすると致す主体は「心」であるので、知に先立つて心があるという

いも風前の灯火である。しかし私たちは微力ではあるが凛とした態度を持ち続けていこうと思う。それは財団設立までに至る30余年にわたる私達の活動を理解し支援し続けて下さった大勢の方々への願いでもあると思つている。

昨年末に青少年育成・自立支援事業の生活棟が竣工した。元々は一昨年91才で他界した私の父が晩年を過ごした家であったものを増築したものであるが、総建築面積は90坪余りの快適な建物として甦つた。

一歩一歩の歩みではあるが「心」を高め続け、共に生きる生活空間として進化していることに對し、これを陰で支えて下さつていらっしゃる一人一人の思いに深く感謝している。

本年は今まで積み重ねた土台の上に内実を形成していく年として地に足のついた歩みを続けていく決意である。今後とも変わらぬご支援のほどお願い申し上げます。

良知を磨くには、各学問の勉強ではなく、その本質、すなわち「心の本体」の修行が重要だとされている。その修行には、実践が重要で、「仕方がない」という精神的墮落からの脱却を意味しています。「良知」が実践を生み、実践が「良知」を育てる。

また、王陽明の万物一体論は、「他人の苦しみも自分の苦しみ」とする強い感性が前提になっており、このような感性がなければ「良知」は発揮されない。

※王陽明(1472年~1529年)は、中国の明代の儒学者、思想家、政治家。朱子学を批判的に継承し、読書のみによつて理に到達することはできないとして、仕事や日常生活の中での実践を通して心に理をもとめる実践儒学陽明学を起こした。

参考文献 Wikipedia・『桜の下
の陽明学』著/吉田和夫



公益財団法人いのちの森文化財団

Tel 026-239-0010 Fax 026-239-0011
〒380-0888 長野県長野市大字上ヶ屋2471番地2198

人生をよりよく生きる
いのちの森文化財団

青少年育成公開講座

ホーム	寄付・募金の 個人協	寄付・募金の 企業協	寄付・募金の 団体協	寄付・募金の 送付方法	遺産の寄付	税制上の 優遇措置	こんな募金の 方法も	チャリティー コンサート	その他の支援
-----	---------------	---------------	---------------	----------------	-------	--------------	---------------	-----------------	--------

人生をよりよく生きる、いのち輝く人生を！



公益財団法人 いのちの森文化財団

いのちの森文化財団のホームページより

公益財団法人 いのちの森文化財団では、寄付を募っています。

- ① 高齢者のための生きがい創造基金への寄付
- ② 青少年育成活動事業への寄付
- ③ 被災地の子どもたちの教育支援寄付
- ④ いのちの森の会費(一般寄付)
- ⑤ 寄付による優遇税制
- ⑥ 遺産を寄付したい方

公益財団法人いのちの森文化財団では
以下の公益目的事業への寄付金を募集しています

- ① 「高齢者のための生きがい創造基金(死を想い、より良い生を生きる・生と死の統合事業)への寄付」
- ② 「青少年の社会復帰と自立のための育成活動への寄付」
- ③ 「東日本大震災被災地の子どもたちの教育を支援する活動(保育園へのお野菜支援含む)」
- ④ 「いのちの森の会費(一般寄付)」

※本財団への寄付は税制上の優遇措置が適用され、所得税・法人税の控除が受けられます。

【ご支援の方法】▼郵便振替用紙にてお振込みの場合は、振替用紙に寄付先①～④をご記入の上、お振込み願います。

▼銀行振込み・電信振込みの場合は、財団事務局までホームページ・メール・FAX・電話(1ページ目参照)にて寄付先①～④をご連絡の上、お振込みをお願いいたします。

【お振込み先】

●ゆうちょ銀行振替口座 00520-3-42181

●八十二銀行 本店営業部 普通 1093531

いずれも名義は「公益財団法人いのちの森文化財団」

寄付・募金 個人で協力する方法

大量生産・大量消費・大量廃棄を通じた経済成長をあまりにも追及する中、いのちのつながりを重視することなく、様々な問題が浮上ってきている現代において、公益財団法人いのちの森文化財団は、「私たち人間は、現在から未来に渡るまでこの地球・宇宙のいのちのつながりの中で、生かし、生かさざれあつていくこと」を最重要なこととして捉え直し、共に生き合ひ、将来世代も含めたいのちの全体が調和するような文化を育む教育・文化活動を行ってまいります。

具体的には、いのちの森文化財団としての▼健康社会教育講座▼青少年育成講座▼文化活動▼「愛といのちを育むいのちの森構想」の推進活動、を自然豊かな信州飯綱高原の18000坪をフィールドとして、日々の生活空間を重視し、活動しております。また、2011年の東日本大震災以後は被災地の子どもたちへの教育支援活動を行っております。

この活動はみなさまのご協力によって支えられています。いのちの森文化財団の活動を通じて、ぜひ将来世代も含めて共に生き合ひることを目指す教育・文化活動を支えてください。個人の皆さまのご協力していただく方法には、以下のようなものがあります。

① 募金を送る

いのちの森文化財団へのご寄付・募金の内容には、①～④の4つがありますので、いづれかをお選びください。

② ボランティア

募金活動を企画・実施(チャリティー・コンサート)

遺産のご寄付(遺贈)・相続財産からのご寄付

※(1)・(4)につき以下にご紹介させていただきます。(2)・(3)の詳細はお問合せ下さい。

① 高齢者のための生きがい創造基金(死を想い、より良い生を生きる・生と死の統合事業)への寄付

いのちの森文化財団は、「地球全体のいのちの営み」を根底に据え、いのちあるものすべてが仲間同士であるという意識を創造し、自然と調和した文化の振興発展を目指し、心の豊かな地域社会の形成に寄与する」という目的にて設立されました。

昨今の環境問題や、超高齢社会に突入している現状(日本人口の65歳以上の人口は21%を超え超高齢社会になっている)、100万人にものぼると言われている青少年のニート・ひきこもり人口の増大、うつ・躁うつ病患者数や自殺者の増加、集落全体人口の50%以上が65歳以上となり、共同体機能維持が限界に達している限界集落の増大などの諸問題を踏まえ、「生から死まで共に生き合うコミュニティの再生・創造」の必要

性を財団設立当初より考えて参りました。これらの原因というのは、過度の経済性の追求を求めてきた結果が大きいのではないかと考えております。

当財団では、「生」から「死」まで共に生きあひ、学びあひ、働きあひ、生活しあつていける「つながりあひいのちの営み」を重視した本来、日本に根づいてきた「コミュニティ文化」の再生・創造を実践し育んでいきたいと思っております。

中でも「死」とは、万人に共通に訪れる重要なものですが、「死」をよりよく迎えるため、最期まで充実した「生」を生き切るためのケアがあまりにも足りないように感じます。このよりよい「生」を過ごし、よりよい「死」をむかえるための「生涯学習・教育」施設の建設、または、現状使われている建物を利用し、様々な生涯学習・教育を展開していく計画です。隣接する自然農園での畑仕事や庭仕事、飯綱高原の大自然とのふれあひや自然観察、高齢者を対象とした各種講座の開催などを予定しています。詳細は、今後の社会状況の変化を鑑み、具体化してまいります。

② 青少年の社会復帰と自立のための育成活動への寄付

近年うつ、ひきこもり、不登校、ニートの青少年が増加して



アフリカ・ザンビア在住のブレンダ博士(英国精神科医)の青少年育成公開講座



福島原発から約24kmの位置にある福島県南相馬市の保育園にお野菜を支援しております

③ 被災地の子どもたちの教育を支援する寄付(保育園へのお野菜支援含む)

将来を担う青少年のこうした現状は、少子高齢社会においては、最も重要な課題のひとつと言えます。青少年育成・社会復帰支援を中心事業の一つとしております当財団では、このような現状を踏まえて、長年培った青少年育成の経験を活かし、医療機関との連携も視野に入れた青少年育成と社会復帰支援事業をより強化・充実させ、一人一人の青少年たちと向き合い、人間力を養っていきけるような事業を展開・実施していく計画です。詳細は、社会的な流れを踏まえながら、理事会にて早急に検討を重ねながらも、2012年度より、相談・講座など事業を開始いたしております。

2011年の東日本大震災は地震と津波による災害に加え、東京電力福島第一原発の放射能漏れ事故が重なり、日本国内のみならず

国際的にも大きな衝撃を与えております。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

この未曾有の災害は、私的な試練を超えて今後の日本全体にとつての再生のあり方が大きく問われていることも事実です。

真なる共生社会のあり方を私たち自ら真剣に問い直し、将来世代に対して責任ある未来社会の創造の道筋をつける使命が私たちに課せられているのだらうと考えております。この苦しい復興の歩みに対して、自らの事のみならず捕らわれる事無く「共に」という意識を喚起し、一歩一歩前に進んでいく決意です。

これらの復興の為に、いのちの森文化財団においても微力ながら支援を続けてまいりました。いわき市から避難してこられた2家族の受け入れと、被災地の子供たちの教育のための支援金募集を行っております。また2011年5月の定例の理事会・評議員会を急遽4月半ばに開催し、財団としても支援金50万円を送ることを決議頂き、また合わせて財団、水輪、オアシス、フアームの関係の方々にもご協力を呼びかけ、応援を頂くことといたしました。

長野県教育委員会とも協議し、被災された子供達の教育の為に支援金を寄付しております。既に2011年6月30日と、2011年12月31日に締め、寄付を実施しており、次回締め切りは2013年3月25日として継続して支援金を募っております。

また、平成24年は被災地の子供たちに安心安全なお野菜を週1回お届けしています。福島県南相馬市の保育園のべ160名の子供たちに安心安全なお野菜で元気いっぱい丈夫な体をつくって欲しいという願いのもとにお野菜を届けたいです。もつと多くの子供たちに新鮮なお野菜を送れますように皆様のご協力を引き続きお願いいたします。

④いのちの森の年会費 (一般寄付)

当財団が行う様々な公益目的事業(教育・文化事業)に使用させていただきます。

⑤寄付による優遇税制

いのちの森文化財団は、特定公益増進法人です。長野県知事より「公益財団法人」としての認定(認定日は平成23年6月22日、法人登記日は同年7月1日)を受けておりますので、平成23年7月1日以降の本財団への寄附金には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、所得税個人、法人税法人の控除が受けられます。

●個人寄附の場合(所得控除) その年の、対象団体に対して行った寄附合計額のうち2千円を超える金額につき適用されます。

●法人寄附の場合(所得控除) 総所得金額等の40%相当額が限度

●例：「資本金が1億円、年中の所得金額が1千万円」の場合 (A)一般損金算入限度額(1億円×25%) (B)別枠の損金算入限度額(1億円×25%÷100) (C)別枠の損金算入限度額(1億円×0.5%)

⑥遺産を寄付したい方 あなたの大切な財産をいのちの森文化財団の公益活動のために役立てて下さいませんか?いのちの森文化財団では、通常のご寄付以外に遺産の寄付につきまして、

⑥遺産を寄付したい方

A「遺言によるご寄付(遺贈)」 B「相続財産からのご寄付」

増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、相続税の控除が受けられます。皆様からいただきました貴重なご意思是、当財団の公益活動(上記①)④に大切に使用させていただきます。

A「遺言によるご寄付(遺贈)」 「遺贈」とは、遺言によりご自身の財産を特定の人や団体に分け与えることを言います。

この受取人にいのちの森文化財団をご指定いただくことで、残された財産をいのちの森文化財団の上記①④の公益活動に使用させていただきます。

いのちの森文化財団へ残された財産のご寄付をご検討の場合には、遺言書の中に、遺贈金額と、遺贈先として当財団の正式名称である「公益財団法人いのちの森文化財団」という名称と①④の事業の指定を、必ず明記してください。

遺言書の作成については、遺言書を作成した必要があり、遺言者の配偶者と子ども、直系尊属については、遺言書の内容に関わらず、自分の受取分として主張できる遺留分が定められていますので、この遺留分についてもご配慮された上で、慎重に遺言書を作成する必要があります。

そのため、遺言書の作成に際しては、弁護士・税理士・司法書士・行政書士・信託銀行など、法律関係に詳しく、信頼できる専門家に相談されることをお勧めいたします。

B「相続財産からのご寄付」 故人の遺志を活かす形で、相続された財産をいのちの森文化財団の上記の公益活動のために役立てていただくことができます。

相続財産をご寄付いただいた場合は、故人ご逝去後10ヵ月以内に、当財団発行の寄付証明書と長野県発行の公益法人証明書を事務局へご提出くださいますと、相続財産のうちのご寄付分についての控除を受けることができます。また、感謝状をお贈りさせていただきます。

青少年育成公開講座開かれる 平成24年12月27日 講師 小林計正 先生 (昭和23年長野市芋井生まれ。元長野県職員。財政課、秘書課、体育課長、北安曇地方事務所長、労政課長、長野技術専門校長、消防学校長、危機管理局参事、商工参事を歴任。)

小林先生は39年間ずっと財政課、秘書課などで地方公務員をしてきたとおっしゃっていました。「一生のうちで自分の意志を貫き通した人はそう簡単にはいないし、挫折もその後の人生のバネになる」とおっしゃっていました。

「人間は背伸びをしないで、自分が培った物、能力の中で、それらを基本に置いて、その時の変化にあった物に対応する事が必要だ。」とおっしゃっていました。

私も今回、受験勉強での挫折を経験し、確かに、今までは私は自分の能力よりも少し背伸びをして生きてきた結果、いっぱい背伸びになってしまっている経験も必要だったのだと思いました。

「父親から学ぶという事で働かないとご飯も食べられない事を身にしみて感じる」とおっしゃっていました。

私も今度お父さん、お母さんはこんなに働くんだろう?なんて考えていたのですが、確かに1つには子供達のためという事がありますが、2つにはそういう姿をお父さん、お母さん自分の親たちから学んだからだと思います、そこに疑問を感じています。

故人の遺志を活かす形で、相続された財産をいのちの森文化財団の上記の公益活動のために役立てていただくことができます。

宮沢賢治の「雨ニモマケズ」という詩は、今月初め 一言一言に重みを感じるお話を聞かせていただきました



2013年 いのちの大学講座 (学長 帯津良一・副学長 巽信夫) ~人生をよりよく生きる~

<p>「がん患者のための合宿養生塾」 講師 帯津良一先生 (帯津三敬病院名誉院長) 2013年 3月29日(金)~4月3日(木) 6月7日(金)~12日(木) 8月23日(金)~28日(木) 11月22日(金)~27日(木)</p> <p>「いのち学」 講師 帯津良一先生 (帯津三敬病院名誉院長) 2013年 3月29日(金)~4月3日(木) 6月7日(金)~12日(木) 8月23日(金)~28日(木) 11月22日(金)~27日(木)</p> <p>「心の探求 ~般若心経の真髄をひととく~」 講師 宮島基行先生 (高野山真言宗阿闍梨 南山進流声明第一人者) 2013年 8月30日(金)~9月1日(日)</p> <p>「心の相談とやさしい心理学」 講師 巽信夫先生 (前信州大学医学部助教授) 2013年 5月18日(土)~19日(日) 10月5日(土)~6日(日)</p> <p>「脳と心の勉強会」 講師 久間祥多先生 (脳神経外科医) 2013年 日程調整中</p> <p>「気功合宿」 講師 中健次郎先生 (気功家) 2013年 9月20日(金)~23日(月祝)</p>	<p>「青少年育成公開講座」 【2013年】 1月 ブレング・デーヴィス 先生 (英国精神科医) 2月 宮島基行 先生 (高野山真言宗阿闍梨) 3月 早川明良 先生 (株ダイサン青果代表取締役) 4月 山下宗洋 先生 (茶道裏千家準教授) 5月 高野道隆 先生 (会社役員) 6月 巽信夫 先生 (いのちの森クリニック院長) 7月 内藤正明 先生 (京都大学名誉教授) 8月 宮島基行 先生 (高野山真言宗阿闍梨) 9月 中健次郎 先生 (気功家・鍼灸師) 10月 宮島基行 先生 (高野山真言宗阿闍梨) 11月 帯津良一 先生 (帯津三敬病院名誉院長) 12月 田山重晴先生 (長野県立農業大学校特別教授)</p> <p>「集中内観セミナー」【随時開催】 面接 塩澤研一 (日本内観学会会員)</p> <p>「リーダーシップセミナー」【随時開催】 講師 塩澤みどり (いのちの森文化財団代表理事)</p> <p>「こけ玉グリーンアートセラピー」【随時開催】</p> <p>「いのちの森の学校」【随時受入】</p> <p>「シーズンチャレンジボランティア」【随時開催】</p> <p>「Webカウンセリング」【随時開催】</p> <p>※詳細はお問い合わせ下さい いのちの森文化財団事務局 TEL 026-239-0010</p>
--	---

今、働かざる者食うべからず、目の前にある事を集中して仕事をしていく、それがどんなに大切な事なのか分かりました。すごく魅力のある人間性の人だと小林先生を見て感じました。やはり苦労もされておられ、その挫折も肥やしにされたのかと思える感じがします。ネイティブアメリカンのお話は感動しました。いのちの森の景色を言ってるような詩でした。

改めて春夏秋冬とめぐって行く季節ごとに色々な景色に変わるのを目の当たりにして恵まれた環境があり、それを父として教えてくれたらいいなと思います。そして本当に人のお話を聞ける事のできる方で、見習わなければならぬなと思えました。(R・K)